

京都府立医科大学附属病院 臨床検査技術課 加藤萌香

【はじめに】

この度はこのような機会をいただき、日本サイトメトリー学会関係者の皆様に感謝申し上げます。私は2019年に京都府立医科大学附属病院に就職以来、検体検査部門（血液・生化学）の臨床検査技師として日々業務を行っています。フローサイトメトリーと血液疾患の繋がりとはとても強く、血液検査においてフローサイトメトリーはなくてはならない存在です。私たちの日常業務は検体処理、抗体やパネルの選択、結果解析などです。当院の検体検査部門では臨床検査部長の稲葉亨先生（本学会前理事長）を含めて現在9名がフローサイトメトリー検査に従事しており、私自身も約5年前からリンパ球サブセットや造血器腫瘍表現型解析等のフローサイトメトリー検査に携わってきました。普段はあまり深く考えない測定原理や応用などを理解することでフローサイトメトリー検査の専門性がさらに高まるのではないかと思います。既にサイトメトリー技術者認定資格を取得されている5名の先輩方から助言をいただき、受験することにしました。

【試験対策について】

- ・「スタンダードフローサイトメトリー 第2版」（医歯薬出版）

ページ数が多くはないので、一冊を4～5日にかけて何回もひたすら読みました。読む回数が増えるごとに覚えている箇所も増えるので自分のモチベーションになり、最初は難しく流し読みしていた所も読む回数が増える度に徐々に理解することができました。

- ・チャレンジ認定試験、認定サイトメトリー技術者筆記試験用到達目標（学会HP）

ある程度勉強が進んだ時点で確認し、自分の苦手分野を割り出したあと重点的に対策を行いました。

【講習会と試験】

技術講習会は試験当日の9:00～16:00まで行われ、その後、試験本番といった流れでした。講習会は何の内容も非常に興味深く、認定試験のことはもちろん今後のフローサイトメトリー検査を行うにあたり大いに参考になることばかりでした。書籍ではなかなか理解するのが難しい部分を講師の先生方はかなりわかりやすく教えていただけたので、この講習会で一気に理解を深められた気がします。ただ、かなり過密なスケジュールで集中力が持つのかどうかと、講習会終了から試験開始までに最後の見直しをする十分な時間はなかったと思うので、各講義終了後の休憩時間に見直す方が確実だと思います。

【受験を通して】

今回認定試験の受験を通して、今まで曖昧だったフローサイトメトリーの基礎知識を再確認でき、またソーティングや測定応用など新しい知識も得ることができました。この知識を生かして業務を行うとともに、さらなる知識と技術を向上させて臨床側に貢献できればと思います。併せて私に続いて後輩技師もサイトメトリー技術者認定試験を受験する際のロールモデルとなれるように、学術活動等にもこれまで以上に取り組みたいと思います。

この体験記が今後受験される方々の参考になれば幸いです。